

25 日本経済のしくみを考える

期間 28年 5月17日[火]～6月28日[火](全7回)

応募締切 5月10日[火]

実施場所 九州国際大学地域連携センター (サテライト・キャンパス)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 (34ページ地図参照)

申込問合せ先 九州国際大学地域連携センター

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 18:30～20:00

定員 30名

受講料 4,000円

(要テキスト事前購入:日経ビジネス人文庫『池上彰のやさしい経済学1 しくみがわかる』(600円税別))

講座概要

実施機関: 九州国際大学地域連携センター

安倍晋三政権が推進する経済政策「アベノミクス」が、テレビや新聞で毎日のように取り上げられ、「マイナス金利」、「円安・株高」などが大きな話題になっています。では、そうした日本経済の基本的なしくみはどのようにして生まれ、どのように進化してきたのでしょうか。そのしくみと課題について、複雑な問題を分かりやすく解説することで定評のあるジャーナリスト、池上彰さんの著書『池上彰のやさしい経済学1 しくみがわかる』(日経ビジネス人文庫=600円+税)に沿って、一緒に考えていきましょう。

月 日	テーマ・内容	担当講師
5月17日 (火)	1 「ガイダンス、金は天下の回りもの——経済とは何だろう」 「経済」とは何でしょうか。実はそれほど古い言葉ではなく、明治期の日本の造語です。その意外な意味は？さらに、経済学も「金儲けのための学問」ではなく、資源配分を考える学問です。(池上彰本「はじめに」+Chap.1)	九州国際大学 特任教授 江本 伸哉
5月24日 (火)	2 「お金はなぜお金なのか——貨幣の誕生」 お金(貨幣)は経済の「血液」です。大昔は意外なものが使われました。どのように生まれ、どう進化してきたのでしょうか。また、お金の流れを支えている銀行にも、実は知られざる重要な役割があります。(同Chap.2)	
5月31日 (火)	3 「『見えざる手』が経済を動かす——アダム・スミス」 品物やサービスの値段はどうやって決まるのでしょうか。政府ではなく、「売り手と買い手の欲望、思惑が交錯する『市場』という道具に任せればうまく行く」と説いた天才が資本主義の父、アダム・スミスです。(同Chap.3)	
6月7日 (火)	4 「資本主義は失業者を生み出す——マルクス」 資本主義は不況の谷が深く、失業者が街にあふれ、貧富の差が広がると見抜いたのがマルクスです。社会主義国の生みの親ですが、その計画経済の現実にはマルクスの理想から大きく隔たったものでした。(同Chap.4)	
6月14日 (火)	5 「公共事業で景気回復——ケインズ」 資本主義を救ったのがケインズです。「国が公共事業で失業者を雇って景気回復を」という画期的な対策です。実際、不況の谷は浅くなり、失業も減ったのですが、インフレと財政赤字という難題も生みしました。(同Chap.5)	
6月21日 (火)	6 「『お金の量』が問題だ——フリードマン」 「大きな政府」のケインズ政策に対し、国防以外は民間に任せようと「小さな政府」を説いたのがフリードマンの新自由主義です。日本の小泉、安倍内閣もこの系譜ですが、弱者切り捨ての側面も露呈しました。(同Chap.6)	
6月28日 (火)	7 「貿易が富を増やす——比較優位」 「各国はみな得意分野に専念し、不得意なモノは輸入する分業がお互いにいい」という比較優位論が自由貿易の建前です。では、日本のTPP問題もそれで割り切り、弱い産業を捨てられるのでしょうか。(同Chap.7)	